# 岩手県立大学

# Annual Report

2025

地域に 未来に 多様なアーチを

## 大学年報

看護学部

社会福祉学部

ソフトウェア情報学部

総合政策学部

盛岡短期大学部

宮古短期大学部



岩手県立大学
Iwate Prefectural University

「自然」、「科学」、「人間」が調和した新たな時代を創造することを願い、人間性豊かな社会の形成に寄与する、深い知性と豊かな感性を備え、高度な専門性を身につけた自律的な人間を育成する大学を目指す。
（岩手県立大学「建学の理念」）

## 岩手県立大学の沿革

1951年4月　岩手県立盛岡短期大学開学
1990年4月　岩手県立宮古短期大学開学
1998年4月　岩手県立大学開学。初代学長に西澤潤一氏が就任
2000年4月　大学院を開設［ソフトウェア情報学研究科博士前期課程・同後期課程／総合政策研究科博士前期課程］
2002年4月　大学院を開設［看護学研究科博士前期課程／社会福祉学研究科博士前期課程／総合政策研究科博士後期課程］
2004年4月　大学院を開設［看護学研究科博士後期課程／社会福祉学研究科博士後期課程］
2005年4月　公立大学法人として新たにスタート。谷口誠学長が就任
第一期中期目標・中期計画期間スタート
岩手県立大学地域連携研究センター設置
2006年4月　盛岡駅西口にアイーナキャンパスを開設
共通教育センター設置
2009年4月　中村慶久学長が就任
2011年4月　第二期中期目標・中期計画期間スタート
いわてものづくり・ソフトウェア融合テクノロジーセンター（i-MOS）設置
地域政策研究センター設置
2013年4月　高等教育推進センター設置
2014年4月　共通教育センターを高等教育推進センターへ統合
2015年4月　鈴木厚人学長が就任
2017年4月　第三期中期目標・中期計画期間スタート
2021年4月　教職教育センター設置
2022年4月　教学IRセンター設置
2023年4月　第四期中期目標・中期計画期間スタート／防災復興支援センターを設置

## “いわて創造人材の育成と地域の未来創造に貢献する大学”

［未来を切り拓く力を高める教育］
［未来創造に資する地域貢献］
［教育と地域貢献の根幹となる高い研究力］

## 岩手県立大学年報―令和７年度―　目次


第四期中期目標・計画及び令和7年度業務実績 …… 03
国連アカデミック・インパクト …… 05
令和７年度地域貢献の活動状況 …… 07
令和７年度研究の活動状況 …… 09
令和７年度教育の活動状況 …… 13
令和８年度入学及び令和７年度卒業・就職の状況 …… 15
令和８年度の入学者選抜の状況 …… 15
令和７年度の卒業者及び就職の状況 …… 17
令和７年度財務状況 …… 19
組織図 …… 21
役職員 …… 22




# 岩手県立大学トピックス ―令和７年度―

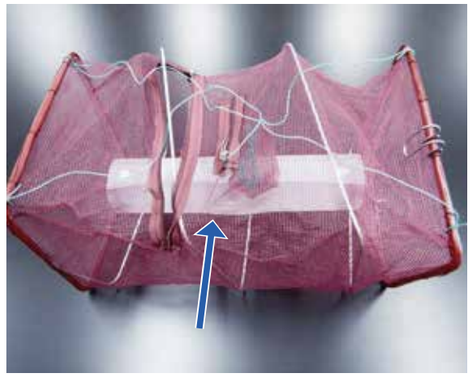
iwate prefectural university topics



大学運営

### 宮古短期大学部で「総合三陸学」開講

令和７年度から、三陸の多様な魅力と課題を学ぶ「総合三陸学」が、２年次選択科目として新たに開講しました。
本科目は、三陸の地で地域と連携しながら、地理・自然・文化・復興・防災を関連性の中で捉え、持続可能な地域づくりなどを考える宮古短期大学部ならではのものです。なお、講義の一部は一般にも公開しています。



市販の籠トラップに円筒状にして取り付けたアタッチメント

研　究

### 「ザリガニ捕獲トラップ用アタッチメント」特許登録

総合政策学部の鈴木正貴准教授と学生の研究グループが開発した「ザリガニ捕獲トラップ用アタッチメント」が、令和８年１月19日に特許登録されました。
本研究は、約10年にわたる検証と改良を重ねて実用化されたものです。外来種アメリカザリガニの駆除という地域の抱える課題の解決に貢献できたことは、本学が重視する「実学」の成果を象徴するものといえます。




研　究

### ソフトウェア情報学部伊藤史人講師が第60回吉川英治文化賞を受賞

令和８年３月５日、ソフトウェア情報学部の伊藤史人講師が、第60回吉川英治文化賞を受賞しました。
この賞は、長年にわたり日本文化の向上に寄与してきた方々に贈られるものです。今回の受賞は、視線入力アプリ「EyeMoT（アイモット）」の開発と普及を通じ、重度の障害のある方々の“できる”を広げ続けてきたことが高く評価されました。



地域貢献

### 若年層向け乳がん・子宮頸がん検診の啓発動画公開

看護学部の尾無徹講師らの研究チームが、久慈市及び株式会社サステナと連携し、乳がん・子宮頸がん検診の受診促進を目的とした学習動画とYouTube広告を制作しました。動画では、検診内容や受診方法をわかりやすく紹介し、安心して受診できるよう工夫されています。



学生活動

### DonabeNet（ドナベネット）７年ぶりに開催

学生ボランティアセンターと、いわて学生ボランティアネットワークの共催で、令和８年３月１日にDonabeNet（ドナベネット）を７年ぶりに開催しました。学生に加え、OB・OGも多数参加し、本学近隣の川前自治会の皆さんと鍋を囲み、交流を深めました。



大学運営

### 本学調整池、環境省「自然共生サイト」に登録

令和８年３月に、第一調整池が環境省の「自然共生サイト」に認定されました。池には多様な動植物からなる健全な生態系が形成され、多くの鳥類の休息、採餌、繁殖の場となっています。今後も、この自然環境を生かし、生物多様性の増進に取り組んでいきます。

# 第四期中期目標・計画、令和７年度業務実績評価

## 第四期中期目標・計画

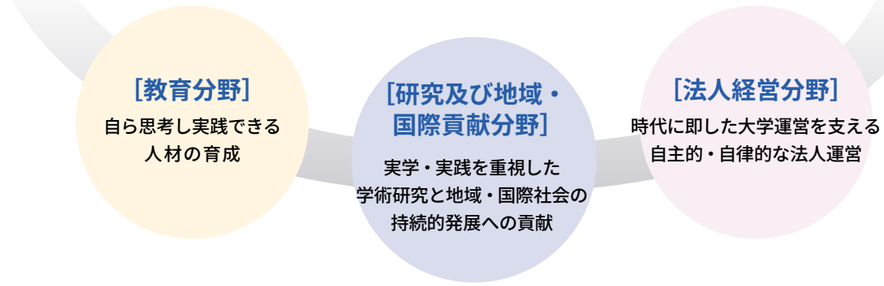
### “国内外における社会環境の変化をとらえ、自律的な高等教育機関として、地域・国際社会の持続的な発展に貢献する大学”へ

岩手県立大学では、令和５年度から令和10年度までの６年間の第四期中期目標期間において、包摂性や多様性を重視しながら経済・社会・環境の課題を統合的に解決し、持続可能な社会の実現を目指すため、第四期中期目標に掲げられている「国内外における社会環境の変化をとらえ、自律的な高等教育機関として、地域・国際社会の持続的な発展に貢献する大学」を目指します。

建学の理念の実現に向けた歩みを進めるため、そして、県民に愛され期待される大学として、自律的かつ積極的に自己改革を進めるとともに、公立大学に期待される役割を意識し、教育研究及び地域・国際貢献において社会的責任を果たす大学となるよう、取り組んでいきます。

### 第四期中期目標における基本姿勢

**国内外における社会環境の変化をとらえ、自律的な高等教育機関として、地域・国際社会の持続的な発展に貢献する**




### 第四期中期計画における主な取組

**[教育分野]**
自ら思考し実践できる人材の育成

- ディプロマ・ポリシーを踏まえた教育課程の編成と多様で効果的な教育方法の展開
- 教育分野の情報分析結果を活用した学修成果の適切な把握と評価
- 大学院の定員を含めた組織のあり方の検討
- 多様な学生の修学支援、生活支援及び進路支援の充実

**[研究及び地域・国際貢献分野]**
実学・実践を重視した学術研究と地域・国際社会の持続的発展への貢献

- 地域の課題解決に向けた取組と多様な学修ニーズに対応した学びの場の提供
- 国際感覚を備えた人材育成と多様な国際交流活動の展開
- 産官学連携によるイノベーションの創出に向けた取組の推進
- 持続可能な地域社会づくり、地域防災力の充実強化や大規模災害からの復旧・復興に貢献

**[法人経営分野]**
時代に即した大学運営を支える自主的・自律的な法人運営

- 法人役員のマネジメント体制による法人経営及び教職員が働きやすい環境の整備と多様性を重視したワークライフバランスや男女共同参画の推進
- 教育研究目標を達成するための計画的な人材確保・育成の実施
- 業務改善等及び職員の能力向上の推進による効率的かつ合理的な法人経営並びに内部質保証方針に基づく改革・改善の推進
- 財務内容をより健全化するための適正な予算執行
- 教育研究環境の変化に対応させた施設・設備の整備と維持、施設の長寿命化に資する維持修繕、計画的な大規模改修工事の実施

## ■令和７年度の業務実績

### ●特に取組が進んだ項目の実績

| | | |
|---|---|---|
| 研究及び地域・国際貢献 | 地域・国際社会への貢献 | 社会人対象講座の開講数については評価指標の倍以上の実績を上げており、また「データサイエンス・リカレント講座」について、自治体向け講座を 10 回開催、延べ 310 人受講と、特筆すべき成果があった。 |
| | 重要な地域課題の解決 | 北いわて関連についてはプロジェクトの研究成果を研究成果発表会（8月）や東京ビッグサイトで開催された「エコプロ 2025」（12 月）への出展等で積極的に発信していること、また防災復興関係については教員や学生団体「FROM」の活動を通じた小中学校等での防災・復興教育への支援などの地域支援活動（計 53 件）や被災経験を有する地域の大学との交流事業などの取組を実施し、年度計画以上の成果があった。 |

### ●その他主要な取組実績

| | | |
|---|---|---|
| 教育 | 学修成果 | ・授業に関する学生調査、全国学生調査等を教学 IR センターシステムで実施、学部等へデータ等提供<br>・システム連携により、詳細な学修成果を収集 |
| | 教育の実施体制の整備 | ・履修証明制度を創設<br>・各研究科における定員充足に向けた取組の情報共有、検討 |
| | 修学支援、生活支援 | ・性の多様性に関するアンケート調査、先進大学への訪問調査を実施<br>・「SOGI研修会」を開催 |
| 研究及び地域・国際貢献 | 研究の水準 | ・「研究環境の整備等に関する戦略」を策定 |
| | 産学官連携 | ・起業支援アドバイザーによる「みちのくGAPファンド」採択課題に対する伴走支援を実施<br>・「キャリアデザインⅠ」、「インターンシップ型連携授業」、「Project Based Learning」を実施 |
| | 重要な地域課題の解決 | ・学生団体「FROM」との協働により、小中学校等での防災・復興教育への支援、地域の防災訓練等への参加、地域からの依頼対応、各種情報発信等を実施 |
| 法人経営 | 法人経営の改善 | ・電子決裁・文書管理システムを試行導入、令和８年度から試行運用及び本格導入するための環境を整備 |
| | 情報公開・情報発信の充実 | ・公式ウェブサイトのリニューアルに向け、プロジェクト計画、コンテンツ移行計画の確認、デザイン、コンテンツ移行の検証を実施 |
| | 施設・設備の整備、活用等 | ・キックオフイベント「ゼロ・カーボン祭」を開催<br>・滝沢キャンパスの照明設備のLED化 |

# 国連アカデミック・インパクト

本学は、2019年5月、国連アカデミック・インパクト（以下「UNAI」）に加盟しました。

UNAIは、各大学が社会貢献を進めながら、国連と世界各国の高等教育機関の活動を連携させることを目的としたプログラムです。

本学は、UNAIに関連する様々な教育研究、地域貢献活動を行っていることから、UNAIの10原則のうちの4原則に参加しています。

原則6：人々の国際市民としての意識を高める
原則8：貧困問題に取り組む
原則9：持続可能性を推進する
原則10：異文化間の対話や相互理解を促進し、不寛容を取り除く
【参考】国連広報センター UNAIウェブページ
これらの4つの原則は、本学の建学の理念と合致しています。

## ■活動報告書

●活動報告書とは

UNAIの加盟大学は、UNAIの10原則のうち、各年度に少なくとも1つの原則に係る活動を実施し、UNAI事務局に報告することとされています。

● 岩手県立大学の活動報告書

本学でもこれまでのUNAIに関連する活動について、活動報告書を取りまとめており、本学の公式ウェブサイトに掲載しています。

岩手県立大学のホームページトップ画面から、「国際交流」のページを参照。

### 1 自然災害における女性支援の取り組み

**～能登半島地震の女性支援ネットワークと協働した大船渡市大規模林野火災における女性支援活動～**

**元岩手県立大学看護学部　教授　福島裕子**
**岩手県立大学看護学部　　教授　アンガホッファ司寿子、准教授　谷地和加子、金谷掌子、　講師　佐藤恵**

女性には災害時に特有の健康問題が起こる。我々は令和7年2月の大船渡市大規模林野火災で女性支援活動を行った。プライベートゾーンの清潔保持や月経不順、尿漏れへの対応策や性暴力被害予防のための留意点を伝えるチラシを作成し、ナプキンや清浄綿など女性の日用品を入れた女性専用支援グッズと一緒に被災地のNPOや避難所に届けた。そして万が一性暴力被害が起こった場合、速やかに緊急避妊ピルを届けて継続支援につなげるデリバリー体制も構築した。今回の活動は、東日本大震災や能登半島地震での女性支援活動の経験があったこと、そしてその活動でつながっていた女性支援ネットワークと協働したことで、災害発生時にスピーディーに実施することができたといえる。



女性支援グッズの準備の様子。巾着の中身を確認し、健康支援のチラシを入れて、配布の準備をしている。

### 2 北いわて地域における県境を越える医療・介護連携の構築に関する諸問題の解明：久慈医療圏の医療DX推進と人的ネットワーク構築のための実証研究

**研究代表者：岩手県立大学看護学部 教授 岡田みずほ**
**共同研究者：岩手県立大学看護学部 教授 工藤朋子・細川舞、准教授　後藤未央子・遠藤良仁、総合政策学部 教授 新田義修、石巻赤十字病院 看護師長 阿部洋子**

久慈医療圏の病院、診療所、訪問看護ステーション、介護施設・事業所、地域包括支援センター等に勤務する看護職・介護職、ならびに関係職種を対象としてミニレクチャー（1．令和6年度のアンケート結果報告、2．久慈医療圏から域外への患者搬送の現状について、3．メルタスの活用について、4．事例検討）と座談会を開催した。参加者は72名であり、看護職、介護職、医師、歯科医師、薬剤師など多職種が参加した。座談会後のアンケートからは、課題解決に向けたICTリテラシー教育、共通の情報共有ツールの活用促進、顔の見える関係づくり、自治体や中核医療機関の関与強化が挙げられた。今後も座談会という場を活用した連携の重要性が指摘された。





ミニレクチャーの風景

### 3 ゲーミフィケーション×対面イベントによるバリアフリーマップシステム「WheeLog！」の開発と普及

**岩手県立大学ソフトウェア情報学部　講師　伊藤史人**
**特定非営利活動法人ウィーログ**

WheeLog!の中心的な活動は、スマートフォンアプリを用いたバリアフリー情報の共有である。利用者は、車いすで実際に通った道を「走行ログ」として地図上に記録できる。また、利用できた施設、飲食店、観光地、トイレ、駐車場などを「スポット」として投稿できる。さらに、その場で感じたことや注意点を「つぶやき」として共有することもできる。これにより、地図上には単なる場所の情報だけでなく、利用者の実感に基づいた生きた情報が蓄積されていく。

2026年5月時点でWheeLog!の総ダウンロード数は約20万、スポット投稿は68,339件、走行ログは16,077km、つぶやきは44,960件に達している。これらの数字は、多くの利用者が自分の経験を投稿し、全国各地のバリアフリー情報を少しずつ積み上げてきた成果である。




街歩きイベント（盛岡）

### 4 満洲開拓の記憶を未来へ：慰霊碑と記憶の継承を学生たちと考える（盛岡短期大学部授業「地域社会論演習」）

**岩手県立大学盛岡短期大学部　教授　三須田善暢**

本活動では、まず学生が岩手県の満洲開拓と慰霊碑継承問題について理解を深めるため、シンポジウムや公開講座への参加、関連文献の読解、関係者への聞き取り調査などを実施した。その後、KJ法を実施し、慰霊塔継承の現状と課題、若い世代としてどのような関わりが可能かを検討した。議論の結果、「知ってもらう」「来てもらう」ことを重視した実践として、「星空観察会&満洲開拓小冊子説明会」を企画・開催した。また、並行して学生主体による小冊子の制作も行い、慰霊塔の歴史や満洲移民の概要、現在の課題などを整理して発信した。これらの活動を通じて、学生たちは地域史継承を自らの課題として考える契機を得た。




周知用小冊子

### 5 2025復興防災学習プログラム

**復興防災学習プログラム運営チーム**
**理事長　石堂淳、高等教育推進センター　江村健介、総合政策学部　杉安和也、桑原尚子、伊藤徳子、盛岡短期大学部　千葉啓子、吉原秋、Hamish Smith**

2025年の復興防災学習プログラムは、8月8日から10日までの3日間、岩手県立野外活動センターを拠点に、オハイオ大学、本庄国際奨学財団及び岩手県立大学から96名が参加し、被災住民との交流や支援活動を行った。

初日は、参加3団体の代表者からの挨拶に続き、東日本大震災津波を契機とした飲料水配布活動（水ボラ）と、これまでの交流の経緯等について説明が行われた後、アイスブレイキングにより参加者相互の交流を図った。

2日目は、高田松原津波復興祈念公園において、3班に分かれて現地ガイドの解説を頂きながら東日本大震災津波伝承館、防潮堤（海を臨む場）、奇跡の一本松及び旧気仙中学校を見学した。

2日目午後は、県営栃ケ沢アパートを訪問し、㈱伊藤園から提供頂いた飲料水のペットボトルを全世帯に配布しながら声掛け活動（水ボラ）を行うとともに、本庄国際奨学財団提供の落語会を住民の皆さんと一緒に鑑賞した。

3日目は、2025年2月に発災した大船渡市大規模林野火災により被害を受けた大船渡市赤崎町外口地区の住家と、旧蛸の浦小学校仮設住宅を訪問して飲料水配布活動（水ボラ）を行い、今年度のプログラムを締めくくった。



大船渡市での水ボラ活動の様子

### 6 国際交流推進室（グローバルセンター）の活動

**国際交流推進室　室長　細越久美子（社会福祉学部教授）、副室長　桑原尚子（総合政策学部准教授）、室員教員　看護学部教授 アンガホッファ司寿子、ソフトウェア情報学部准教授 南野謙一、盛岡短期大学部准教授 熊本早苗、宮古短期大学部准教授 大前義幸、高等教育推進センター准教授 江村健介、国際交流専門員　森彩綾花、　スタッフ 工藤真結子**

国際交流推進室が運営するグローバルセンターの主な業務は、次の通りです。

①研修・海外留学・国際交流に関する相談
②外国人留学生・外国人研究者の教育・生活関連の相談
③国際交流イベントの企画・運営
④海外協定校との連絡・調整

また、定期的に留学生が出身国の文化や食生活等を紹介する多文化理解講座、多文化理解イベントの開催、留学生オリエンテーション・日本語支援、海外研修の紹介、外国人留学生との交流バスツアー（えさし藤原の郷、厳美渓）、ホームビジット（滝沢市国際交流協会と連携）を企画・運営しています。

ホームビジット終了後は、受入れ家庭と参加した外国人留学生を主な対象に報告会を開催し、外国人留学生が地域と交流を深める機会の充実に取り組んでいます。




多文化理解講座

# 令和７年度地域貢献の活動状況

## 新たな価値を創造し、地域の未来に貢献する大学を目指して

### ■北いわて産業・社会革新ゾーンプロジェクトの推進

「未来創造に資する地域貢献」の取組を進めている本学では、平成31年４月に岩手県と「北いわての地域課題の解決及び産業振興に向けた連携協力協定」を締結し、いわて県民計画（2019～ 2028）に掲げる「北いわて産業・社会革新ゾーンプロジェクト」を共同で推進することとしました。そこで本学では、研究・地域連携本部に「北いわて産業・社会革新ゾーンプロジェクト推進センター」（センター長：研究・地域連携本部長兼務）を設置し、北いわての地域課題の解決や産業振興につながる調査・研究、人材育成などに取り組んでいます。

令和７年度は学内研究費（令和２年度創設）により北いわてをフィールドとした研究活動を展開するとともに、東京大学をプロジェクトリーダーとする「共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT、令和３年度から参画）」の取組として、地域課題の解決や地域を担う人材育成を目的に、地域の将来を考える「未来ワークショップ」や地域課題の解決を図る「リビングラボ」、総合学習や探究授業等における地域協創のまちづくり学習等を実施しました。

### ■地域政策研究センターによる研究の推進及び市町村への支援

「実学・実践重視の教育・研究」を基本的方向の一つとする本学では、県民のシンクタンク機能のさらなる充実強化を図るため、平成23年に地域政策研究センターを設置しました。センターでは、県民が抱える課題・ニーズに「地域目線」で向き合い、多様な専門分野の研究者が、自治体やNPO、企業との協働により、地域課題を解決するための研究や市町村の地方創生の取組支援を行っています。

#### ● 地域協働研究の推進

本学では、県内の自治体、地域団体、企業等からの提案を受け、地域課題の解決に向けた協働研究に取り組んでおります。令和7年度は地域課題を可視化・構造化する調査研究と課題解決プランの策定を目的とした研究に区分するため、新たに「ステージⅠ（育成型）」（研究期間：単年度）を設定し、従来の課題解決プランの策定を支援する「ステージⅠ（本格型）」（研究期間：単年度）と、研究成果を課題解決に応用するための活動を支援する「ステージⅡ」（研究期間：2か年度）の3区分とし、それぞれの課題・ニーズに対応した研究活動を展開しています。令和7年度は、ステージⅠ（育成型）で11課題、ステージⅠ（本格型）で29課題、ステージⅡで1課題の研究に取り組みました。

#### ● 市町村の地方創生への取組支援

本学では、平成27年度より、市町村の地方創生の取組を支援しており、まち・ひと・しごと創生総合戦略等の策定・推進や、地方創生を担う市町村職員の政策法務能力向上等の支援に取り組んでいます。令和7年度は、7市町を対象に政策法務に係る相談（延べ70件）や13市町で職員向け政策法務研修（延べ27回）を実施しました。

#### ● 研究成果の発信

地域協働研究をはじめとする研究成果の地域への還元を目的として、令和７年８月に「研究・地域連携本部　研究成果発表会」を開催しました。プレゼンテーション発表やポスターセッション及びパネル展示による研究発表などを実施し、自治体職員等80人が参加しました。

### ■防災復興支援センターの取組

本学では、東日本大震災津波の教訓を踏まえた「次の大災害への備え」を進めるため、令和５年４月に「防災復興支援センター」を設置し、地域の防災力向上に資する支援活動や調査研究活動、人材育成活動等に取り組んでいます。

令和７年度は、令和６年度に創設した防災復興にかかる学内研究費により防災・復興をテーマとする調査研究を実施したほか、市町村の地区防災計画等の策定支援、避難訓練の実施支援、小中高生を対象とする防災教育を通じた人材育成、東日本大震災津波伝承館の企画展示を通じた情報発信などに取り組みました。

また、センターの取組を更に推進するため、令和６年度に設立した学生団体「FROM」には、令和７年度は32名のメンバーが登録し、地域からの依頼による防災訓練等への参加や各種イベントの対応、防災教育への対応などを行いました。



学生団体「FROM」メンバー

### ■公開講座等各種講座の開催

県民の皆様への学びの場の提供と研究成果の還元を図るため、毎年夏に滝沢キャンパスで開催している公開講座（全７講座）は延べ522人が受講し、宮古キャンパスでの公開講座（全３講座）は延べ69人が受講しました。その他、地区講座については、滝沢市睦大学と連携した講座（15人受講）の他、新たに県北地区講座（二戸市、３講座、延べ75人受講）と県南地区講座（一関市、３講座、延べ37人受講）を開催しました。また、宮古短期大学部が地域連携事業として「生涯学習講座」（７講座、延べ61人受講）を開催しました。

令和５年度から開催している、地域の自治体DX推進とスキル向上を目的とした「データサイエンス・リカレント講座」は、全10講座を開催し、310人が受講しました。

また、若手技術者・学生を対象に、高付加価値・高効率型ものづくりに不可欠な先端的技術をテーマとした高度技術者養成講習会を10講座開催し、延べ126人の参加がありました。



高度技術者養成講習会

### ■Rubyプログラミング教室の開催

児童生徒のICT活用スキルの向上と課題解決能力の育成に資するため、滝沢市立滝沢第二中学校の科学技術部員を対象に、Rubyプログラミング教室を実施しました。同部は、プログラミング教室の成果を「中高生Rubyプログラミングコンテスト2025」のゲーム部門に応募して、1作品が一次審査、二次審査を通過し、11月に行われた最終審査会において、審査員特別賞を獲得しました。

### ◆企業学群構想の推進

滝沢市IPUイノベーションセンター・パーク企業を学部・研究科と同等の「企業学群」と捉え、情報の共有や相互の信頼・協調関係を促す集積拠点を実現し、産学官連携による事業共創や人材育成を目指す「企業学群構想」の実現に向け、学部教員、滝沢市IPUイノベーションセンター・パーク企業及び滝沢市による連絡会議を毎月開催したほか、会議の下に実施事業ごとにワーキンググループを設置して、企画調整を行いました。令和７年度は、産学連携事業として、オープンイノベーションをテーマとした「滝沢市IPUイノベーションフォーラム2026」や、産学連携共同研究プロジェクトの成果公表の場として「CEATEC2025」に出展しました。また、産学官関係者の交流活性化を目的として、滝沢市IPUイノベーションセンターを会場に本学教員の研究内容を紹介するトークセッション「イノベCafé」などを開催しました。



滝沢IPUフォーラム



CEATEC2025



イノベCafe

### ◆全学競争研究費による研究の推進

将来的に大型・学際連携型外部資金の獲得を目指す研究を支援するため、平成29年度に創設。令和７年度は４件を採択しました。

### ◆外部研究資金の獲得状況

令和８年度科学研究費への新規応募は93件で、そのうち採択は15件でした。継続課題を含めた採択率は28.0%（前年度30.1%）となりました。また、令和７年度の共同研究、受託研究等及び奨学寄附金の獲得件数は合計51件（同１件増）、受入金額は126,008千円（同23,828千円減）でした。

### ◆看護実践研究センターの取組

県民の健康増進とQOLの向上及び岩手の看護の質の向上に寄与することを目的に、地域協働事業（令和６年度までは地域貢献事業）と研修事業を実施しました。

令和３年度から取り組んでいる4つの地域協働事業では、健康のためのウォーキング促進活動、健康ダンス「イ・ン・ダ」県大バージョンの普及活動、ラーニング・サポーター・プロジェクトにおける活動、母子保健活動に活かせる資材検討活動など、滝沢市と協働して住民の健康推進や学習支援に取り組み、参加したみなさまから好評をいただきました。

また、「岩手県委託　新人看護職員研修」に18施設から43名、看護学部教員の専門性を生かした「専門職研修事業」は48講座を開講し延べ811名の参加がありました。県内病院に出向いて講師を務める「研究指導」も14施設で実施しました。



大学でのウォーキングイベント



ラーニング・サポーターによる学習支援

# 令和７年度研究の活動状況

## ■地域協働研究

詳細はこちらから

岩手県立大学
ホームページ内
地域協働研究
関連ページ

地域協働研究は、地域の諸団体と本学教員が協働で、地域が抱える課題の解決に取り組む研究です。地域政策研究センターの取組として、平成 24 年度に創設されました。これまで取り組んできた研究課題は、300 課題を超えます。

令和７年度からは、研究成果をできるだけ早く地域社会に届けるしくみとして、下記のとおり研究費の制度を見直しました。

**〔ステージⅠ（育成型）〕地域課題可視化・構造化ステージ**

地域の状況を客観的に分析し、課題等を可視化・構造化するための調査研究の段階。

研究費：１課題当たり上限 10 万円（研究期間：単年度）

**〔ステージⅠ（本格型）〕課題解決プラン策定ステージ**

地域課題を解決する方策を策定するための調査研究の段階。

研究費：１課題当たり上限 30 万円（研究期間：単年度）

**〔ステージⅡ〕研究成果実装ステージ**

地域課題を解決するために実施した本学の調査研究の成果を実際に地域に活用する活動の段階。

研究費：１年度目：１課題当たり上限 100 万円

２年度目：１課題当たり上限 90 万円

※地域協働研究費の 10%相当額を共同研究費として提案者が負担

### ≪ステージⅠ（育成型）：地域課題可視化・構造化ステージ≫

※研究代表者 五十音順

#### 社会福祉学部

| | 研究課題 | 研究代表者 | 共同研究者・提案団体 | 研究期間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 岩手県内の精神障害者ピアサポートに関する実態調査 | 泉　啓 | 特定非営利活動法人ココカラいわて | R7年4月～R8年3月 |
| 2 | 奥州市における地域福祉の現状と課題に関する研究 | 佐藤　哲郎 | 社会福祉法人奥州市社会福祉協議会 | R7年4月～R8年3月 |
| 3 | 盛岡市における老人クラブ活動の活性化 | 本間　萌 | 盛岡市 | R7年4月～R8年3月 |

#### ソフトウェア情報学部

| | 研究課題 | 研究代表者 | 共同研究者・提案団体 | 研究期間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | リニューアル3年目を迎えるZOOMOにおける顧客満足度を高めるための周遊コンテンツと魅力向上のアプローチの開発に係る課題の整理と調査 | 阿部　昭博 | 株式会社もりおかパークマネジメント | R7年4月～R8年3月 |
| 2 | ICTを活用した小中学生に向けた文化財周知のための基礎検討 | 富澤　浩樹 | 山田町教育委員会 | R7年4月～R8年3月 |
| 3 | ドローンを活用した省力的な放牧看視に関する研究 | 馬淵　浩司 | 岩手県沿岸広域振興局農林部宮古農林振興センター | R7年4月～R8年3月 |

#### 総合政策学部

| | 研究課題 | 研究代表者 | 共同研究者・提案団体 | 研究期間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 雫石町・健康MaaS～患者健康管理・通院支援システム～の構築に関する研究課題の可視化 | 宇佐美　誠史 | 雫石町 | R7年4月～R8年3月 |
| 2 | 「まちの将来像」実現の把握のための数値指標の設定について | 堀篭　義裕 | 一関市 | R7年4月～R8年3月 |
| 3 | 花巻市笹間地区の課題と今後の取り組みについて | 山本　健 | 花巻市笹間地区コミュニティ会議 | R7年4月～R8年3月 |

#### 高等教育推進センター

| | 研究課題 | 研究代表者 | 共同研究者・提案団体 | 研究期間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 小規模地域コミュニティ存続における小学校の存在意義に関する事例研究 | 山沢　智樹 | 新しい小学校をつくる会 | R7年4月～R8年3月 |
| 2 | 岩手の子どもたちが思う岩手の今と未来 | 渡部　芳栄 | 岩手県 | R7年4月～R8年3月 |

### ≪ステージⅠ（本格型）：課題解決プラン策定ステージ≫

※研究代表者 五十音順

#### 看護学部

| | 研究課題 | 研究代表者 | 共同研究者・提案団体 | 研究期間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 介護予防の意識向上を目指した個別プログラムの構築 | 馬林　幸枝 | 有限会社ホームセンター仙台 | R7年4月～R8年3月 |
| 2 | 岩手県立病院の電子クリニカルパス運用を推進する組織モデルの構築 | 岡田　みずほ | 岩手県立宮古病院 | R7年4月～R8年3月 |
| 3 | 岩手町におけるクアオルト®健康ウォーキングの健康増進事業化の可能性の検討－クアオルト®健康ウォーキングのメンタルヘルスへの影響の検討－ | 藤澤　由香 | 岩手町 | R7年4月～R8年3月 |

#### 社会福祉学部

| | 研究課題 | 研究代表者 | 共同研究者・提案団体 | 研究期間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 盛岡市のひきこもりに係る現状把握と支援施策の検討 | 平坂　義則 | 盛岡市 | R7年4月～R8年3月 |
| 2 | 盛岡市ヤングケアラーに関する実態調査 | 平坂　義則 | 盛岡市子ども未来部こども家庭センター | R7年4月～R8年3月 |

#### ソフトウェア情報学部

| | 研究課題 | 研究代表者 | 共同研究者・提案団体 | 研究期間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 生成AIを活用した岩手県立水産科学館の魅力向上と展示システムの高度化 | 蔡　大維 | 岩手県立水産科学館 | R7年4月～R8年3月 |
| 2 | SNS相談の地域版ゲート（こころの相談窓口誘導ボット）の地域展開手法に関する研究 | 富澤　浩樹 | 盛岡市 | R7年4月～R8年3月 |

#### 総合政策学部

| | 研究課題 | 研究代表者 | 共同研究者・提案団体 | 研究期間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 宮古市新里地区における持続可能な地域内交通の構築に向けた調査研究 | 宇佐美　誠史 | 宮古市 | R7年4月～R8年3月 |
| 2 | 岩手県広域サイクリングルートにおけるターゲットに関する調査 | 宇佐美　誠史 | 岩手県 | R7年4月～R8年3月 |
| 3 | 中心市街地（内丸地区）を対象にした実践活動による「交流・共創拠点」の分析 | 倉原　宗孝 | 盛岡市 | R7年4月～R8年3月 |
| 4 | 水沢駅周辺における奥州の顔としての空間と活動の創出に向けた実践研究－世代や各地を結び開かれるウォーカブル空間づくりに向けて－ | 倉原　宗孝 | 奥州市 | R7年4月～R8年3月 |
| 5 | 若者との協働による地域企業の企業価値向上に関する実証分析とモデル構築 | 近藤　信一 | 特定非営利活動法人wiz | R7年4月～R8年3月 |
| 6 | 決済機能付き地域アプリの通知機能を用いたユーザアクションの実証実験 | 近藤　信一 | 盛岡Value City株式会社 | R7年4月～R8年3月 |
| 7 | 釜石市片岸公園の生物多様性を目指した植生管理方法の確立 | 島田　直明 | 株式会社かまいしDMC | R7年4月～R8年3月 |
| 8 | ＥＢＰＭの手法を取りいれた盛岡市行政ＤＸ推進計画の策定について | 杉谷　和哉 | 盛岡市 | R7年4月～R8年3月 |
| 9 | 郷土財活用湧水エリアにおける湿地植生の評価と湿地管理方法の確立 | 辻　盛生 | 大槌町 | R7年4月～R8年3月 |
| 10 | 木賊川遊水地内に創出した暫定的な「希少野生動植物保全区」に関する適切な維持管理方法とそれに要する各種労力の解明 | 辻　盛生 | たきざわ環境パートナー会議 | R7年4月～R8年3月 |
| 11 | スマート農業（デジタルDX）の導入促進に向けたタブレット端末の効果的な活用方法に関する研究 | 新田　義修 | 滝沢市 | R7年4月～R8年3月 |
| 12 | 住民の主体性を担保する地域組織の再編―鳥海小学校廃校後の校舎利活用を契機とした地域づくりのために | 平井　勇介 | 一戸町 | R7年4月～R8年3月 |
| 13 | 県南地域における関係人口の関わりの度合いに応じた人口減少対策の推進について | 堀篭　義裕 | 岩手県 | R7年4月～R8年3月 |
| 14 | ふるさと納税制度における寄附者との関係性構築に向けた寄附動機の把握と要因分析 | 三好　純矢 | 盛岡市 | R7年4月～R8年3月 |
| 15 | 持続可能なコミュニティ形成過程にかかる評価指標の構築 | 役重　眞喜子 | （仮称）彦部地区地域運営組織設置準備会議 | R7年4月～R8年3月 |
| 16 | 水福連携の普及及び認知度向上に向けた研究 | 山本　健 | 岩手県 | R7年4月～R8年3月 |

#### 盛岡短期大学部

| | 研究課題 | 研究代表者 | 共同研究者・提案団体 | 研究期間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 高断熱で地域に根差した「岩手型住宅」の普及及び住教育の展開に関する研究 | 青笹　健 | 岩手県 | R7年4月～R8年3月 |
| 2 | 西和賀産わらび粉の品質と菓子加工特徴の評価 | 長坂　慶子 | やまに農産株式会社 | R7年4月～R8年3月 |
| 3 | 岩手県満州開拓事業・資料に関わる慰霊・保存・啓発活動の継承にむけて | 三須田　善暢 | 岩手県満州開拓殉難の塔を守る会 | R7年4月～R8年3月 |

#### 宮古短期大学部

| | 研究課題 | 研究代表者 | 共同研究者・提案団体 | 研究期間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 産直施設における繁忙期等を中心としたPOS、ロケーションデータの活用による販売および利用者状況の可視化と予測に関する検討 | 大志田　憲 | 岩手県沿岸広域振興局農林部宮古農林振興センター | R7年4月～R8年3月 |
| 2 | インバウンドに対応した展示ガイドシステムの開発 | 舁高　茂樹 | 宮古市崎山貝塚縄文の森ミュージアム | R7年4月～R8年3月 |
| 3 | 大学教育を通した三陸ジオパーク理念の浸透度向上のための調査研究 | 田中　宣廣 | 三陸ジオパーク推進協議会 | R7年4月～R8年3月 |

### ≪ステージⅡ：研究成果実装ステージ≫

※学部別、研究代表者 五十音順

| | 研究課題 | 研究代表者 | 共同研究者・提案団体 | 研究期間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 職員の業務効率化と地域歴史観光の振興を実現する生成AI活用型ガイドシステムの開発と実装 | 蔡　大維（ソフトウェア情報学部） | 盛岡市教育委員会 | R7年4月～R9年3月 |

# 科学研究費助成事業

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金／科学研究費補助金）は、人文学、社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」（研究者の自由な発想に基づく研究）を格段に発展させることを目的とする「競争的研究費」です。ピアレビューによる審査を経て、独創的・先駆的な研究に対する助成を行います。
本学では、応募申請に対する支援体制を整えるなど、採択率向上に向けた取組を行っています。

詳細はこちらから

科学研究費助成事業データベース「研究機関」に「岩手県立大学」と入力して検索。

## 看護学部

※研究種目別、研究代表者 五十音順

| | 研究種目 | 研究課題 | 本学における研究代表者 |
|---|---|---|---|
| 1 | 基盤研究（C）（基金） | アクションリサーチから構築する持続可能な小児訪問看護システムとその検証 | 相墨　生恵 |
| 2 | 基盤研究（C）（基金） | マルチモビディティと生きる前期高齢者のセルフケアを支援するための援助指針の開発 | 内海　香子 |
| 3 | 基盤研究（C）（基金） | ニューノーマル時代に地域医療を担う看護職の生涯学習支援オンラインプログラム開発 | 遠藤　良仁 |
| 4 | 基盤研究（C）（基金） | AIを導入した看護業務評価を用いた看護業務モデルの開発と実証研究 | 岡田　みずほ |
| 5 | 基盤研究（C）（基金） | 地域の中小規模病院で働く臨床看護師の研究支援プログラムの開発 | 鈴木　美代子 |
| 6 | 基盤研究（C）（基金） | 筋注用ワクチン製剤による注射部位副反応を軽減・予防する看護技術の確立 | 高橋　有里 |
| 7 | 基盤研究（C）（基金） | 筋肉内注射の確かな刺入深度に基づく看護技術の確立 | 藤澤　望 |
| 8 | 基盤研究（C）（基金） | 糖尿病性腎症初期患者に対する患者教育プログラムの開発と実践適用 | 藤澤　由香 |
| 9 | 基盤研究（C）（基金） | 児童養護施設のリプロダクティブ・ヘルスケアモデル長期的効果検証とガイドライン作成 | 福島　裕子 |
| 10 | 基盤研究（C）（基金） | 助産師と協働した児童養護施設のリプロダクティブ・ヘルスケア実施体制の構築と検証 | 福島　裕子 |
| 11 | 基盤研究（C）（基金） | 効果的で安価かつ心理的安全性を確保するシミュレーション教育用デバイスの開発 | 三浦　奈都子 |
| 12 | 基盤研究（C）（基金） | セクシュアル・ヘルスケアを実践する看護職のアンラーニング促進教育プログラムの開発 | 谷地　和加子 |
| 13 | 若手研究（基金） | 効果的な多職種連携につながるデイサービス看護師の看護ケアコンピテンシーの確立 | 小嶋　美沙子 |

## 社会福祉学部

※研究種目別、研究代表者 五十音順

| | 研究種目 | 研究課題 | 本学における研究代表者 |
|---|---|---|---|
| 1 | 基盤研究（C）（基金） | 「妖怪」による災害時のメンタルヘルス | 菊地　学 |
| 2 | 基盤研究（C）（基金） | ジェンダーを踏まえた触法知的障害者と支援者のための継続的な地域定着支援プログラム | 紀司　かおり |
| 3 | 基盤研究（C）（基金） | アイトラッキング装置を用いた感情の影響による購買意思決定の情報探索の検討 | 菊地　学 |
| 4 | 基盤研究（C）（基金） | 包括的支援体制構築における行政・専門職・地域協働による参加型評価モデルの開発 | 佐藤　哲郎 |
| 5 | 基盤研究（C）（基金） | アウトカム評価による児童養護施設訪問アドボカシーシステムの一般化に向けた研究 | 實方　由佳 |
| 6 | 基盤研究（C）（基金） | 福祉国家を機能させる政策実践構想ー「社会権保障の公序」と「コモンズ統治」 | 高橋　聡 |
| 7 | 基盤研究（C）（基金） | 地域における住居荒廃の解決と予防に向けた住民向け教育プログラムの開発 | 高木　善史 |
| 8 | 基盤研究（C）（基金） | フィンランドにおける親族介護支援制度の実態の把握：介護者決定過程に焦点をあてて | 濤岡　優 |
| 9 | 基盤研究（C）（基金） | ブレグジット後のイギリスの医療・福祉サービスの再編 | 日野原　由未 |
| 10 | 基盤研究（C）（基金） | 演劇教育によるインクルーシブネス：ろう者と聴者から成る劇団のワークショップの検討 | 若林　陽子 |
| 11 | 若手研究（基金） | 子ども支援・教育者に対するトラウマインフォームドアプローチに基づく心理教育の構築 | 瀧井　美緒 |
| 12 | 若手研究（基金） | 介護福祉職の休憩時間の雑談を通した実践知の学習・獲得に関する研究 | 松永　繁 |
| 13 | 若手研究（基金） | エドガー・ウィレムスの音楽教育の展開：L'eveil musicalの実践に着目して | 若林　一惠 |
| 14 | 厚生労働科学研究費 | 医療観察法における円滑な社会復帰を促進するための連携等の方策を推進するための研究 | 三品　竜浩 |

## ソフトウェア情報学部

※研究種目別、研究代表者 五十音順

| | 研究種目 | 研究課題 | 本学における研究代表者 |
|---|---|---|---|
| 1 | 基盤研究（C）（基金） | 野外ミュージアムの特質を踏まえたデータ活用フレームワークの研究 | 阿部　昭博 |
| 2 | 基盤研究（C）（基金） | エージェントベース社会シミュレーションを活用した論理的推論の教授法の提案 | 市川　尚 |
| 3 | 基盤研究（C）（基金） | 人口非密集地における発災初期の安全・安心に向けた通信ネットワーク構築手法の開発 | 今井　信太郎 |
| 4 | 基盤研究（C）（基金） | 10万時間の音声データ検索 | 伊藤　慶明 |
| 5 | 基盤研究（C）（基金） | 激甚化する風水害の特性と財務変動を考慮した短期的リスクファイナンス評価手法の研究 | 大堀　勝正 |
| 6 | 基盤研究（C）（基金） | 脳の視覚特性を組み込んだ深層学習モデルによる大きさ知覚特性の検証 | 眞田　尚久 |
| 7 | 基盤研究（C）（基金） | XR空間を横断した未来型放送・視聴体験の実現 | 齊藤　義仰 |
| 8 | 基盤研究（C）（基金） | 単語分散表現の頻度エンコード問題の解消 | 鈴木　郁美 |
| 9 | 基盤研究（C）（基金） | AI技術による進路指導変革を目指した情報系学部の進路選択支援システムの開発 | 田村　篤史 |



| | 研究種目 | 研究課題 | 本学における研究代表者 |
|---|---|---|---|
| 10 | 基盤研究（C）（基金） | A novel study on visible ingredient identification in food images for food computing | 戴　瑩 |
| 11 | 基盤研究（C）（基金） | サイバー攻撃をカタチで捉える情報システムの開発―激増する攻撃パケットへの対処法― | 成田　匡輝 |
| 12 | 基盤研究（C）（基金） | 集合論ベースの定理証明支援系の言語使用の刷新 | 中正　和久 |
| 13 | 基盤研究（C）（基金） | 気候変動下における果樹生産強化に向けたデジタルツインの構築 | ニックス　ステファニー |
| 14 | 基盤研究（C）（基金） | アンサンブル融合に基づくドメイン適応の最適化による高度な人物の再識別（ReID） | PRIMA・OKY・DICKY |
| 15 | 基盤研究（C）（基金） | 郷土芸能伝承のためのセンサフュージョンによる「わざ」の要素の「教え方」の可視化 | 松田　浩一 |
| 16 | 基盤研究（C）（基金） | 運転エピソード記憶：極限環境でのドライバの振る舞いとエピソード記憶のマッピング | 間所　洋和 |
| 17 | 基盤研究（C）（基金） | 認知症予備群を対象とした逆走トリガーとなり得る運転シチュエーションの同定 | 山邉　茂之 |
| 18 | 国際共同研究強化（A）（基金） | 問題変形作問における難易度の解明と問題変形作問学習支援システムの開発 | 福井　昌則 |
| 19 | 若手研究（基金） | 問題変形作問における質的・量的評価方法の構築と学習支援システムの開発 | 福井　昌則 |

## 総合政策学部

※研究種目別、研究代表者 五十音順

| | 研究種目 | 研究課題 | 本学における研究代表者 |
|---|---|---|---|
| 1 | 基盤研究（B）（基金） | 多様化する地域社会の存続にコミュニティ・キャピタルが与える影響に関する研究 | 吉野　英岐 |
| 2 | 基盤研究（C）（基金） | 府県林業公社とその分収造林地の展望に関する実証分析 | 泉　桂子 |
| 3 | 基盤研究（C）（基金） | 心理的効果と不完備選好に着目した選択行動の分析およびその応用 | 小井田　伸雄 |
| 4 | 基盤研究（C）（基金） | 農村生物多様性保全に資するため池の水生動物調査労力低減に向けた新技術の開発 | 鈴木　正貴 |
| 5 | 基盤研究（C）（基金） | 住宅地内の小河川に再生した絶滅危惧種カワシンジュガイ個体群の再生産要因の解明 | 辻　盛生 |
| 6 | 若手研究（基金） | 市民社会組織のメンバーシップと法制度環境をめぐる多国間比較研究 | 大和田　悠太 |
| 7 | 若手研究（基金） | 法人税収の二段階推計モデルの研究開発 | 島田　悦作 |
| 8 | 若手研究（基金） | 社会関係資本の保有格差の実態・メカニズム・変動性の体系的解明：時空間的アプローチ | 鈴木　伸生 |
| 9 | 若手研究（基金） | 韓国の非正規労働者の雇用安定と処遇改善のための法制度の立法効果に関する考察 | 徐　侖希 |
| 10 | 研究活動スタート支援（基金） | なぜ集落は合併しないのか／合併したのはなぜか？：政策分析・事例収集・実態調査 | 佐藤　周平 |

## 盛岡短期大学部

※研究種目別、研究代表者 五十音順

| | 研究種目 | 研究課題 | 本学における研究代表者 |
|---|---|---|---|
| 1 | 基盤研究（C）（基金） | 民俗学で語る戦争：従軍看護婦たちの戦中・戦後と職業婦人としての仕事と日常の民俗誌 | 原　英子 |
| 2 | 若手研究（基金） | 20世紀初頭フランス女性の近代的女性観形成における東洋趣味モードの影響 | 佐藤　恭子 |

## 宮古短期大学部

※研究種目別、研究代表者 五十音順

| | 研究種目 | 研究課題 | 本学における研究代表者 |
|---|---|---|---|
| 1 | 基盤研究（C）（基金） | 効果的な情報発信のための観光地画像に対する感性と色彩、視線の相関分析 | 大志田　憲 |

## 高等教育推進センター

※研究種目別、研究代表者 五十音順

| | 研究種目 | 研究課題 | 本学における研究代表者 |
|---|---|---|---|
| 1 | 基盤研究（C）（基金） | イエズス会布教活動から紐解くジェイムズ・ジョイスの東方への旅 | 伊東　栄志郎 |
| 2 | 基盤研究（C）（基金） | 東北方言のヴォイスから見た日本語の述語膠着性 | 高橋　英也 |
| 3 | 基盤研究（C）（基金） | シングルマザーの幸福感とその関連要因：新型コロナ感染症も含めた生活要因を中心に | 福島　朋子 |
| 4 | 基盤研究（C）（基金） | 政策評価分析による公立大学法人制度の評価の試み | 渡部　芳栄 |
| 5 | 若手研究（基金） | 19世紀の哲学教育論と戦後フランスの教育改革運動に関する思想史的研究 | 松田　智裕 |
| 6 | 若手研究（基金） | 20世紀中葉のトルコ共和国における宗教管理体制 | 上野　愛実 |
| 7 | 若手研究（基金） | 奨学金が学生生活に与える影響の国際的実証研究：メンタルアカウンティングに着目して | 呉　書雅 |
| 8 | 若手研究（基金） | 選考に着目した奨学金が大学生の学習に与える影響：行動経済学アプローチ応用の展開 | 呉　書雅 |

## 研究・地域連携本部

※研究種目別、研究代表者 五十音順

| | 研究種目 | 研究課題 | 本学における研究代表者 |
|---|---|---|---|
| 1 | 基盤研究（C）（基金） | 積雪寒冷地域における安全走行を支援する次世代道路状況プラットフォーム | 柴田　義孝 |
| 2 | 基盤研究（C）（基金） | Development of Integrated Quantum Inspired Algorithms for Shapley Value based Fast and Interpretable Feature Subset Selection | チャクラボルティ バサビ |
| 3 | 基盤研究（C）（基金） | Healthcare Risk Prediction on Data Streams Employing Signal Transformation Network（OCSTN） | 藤田　ハミド |
| 4 | 基盤研究（C）（基金） | 折口信夫旧蔵資料のデータベース（目録）化とこれに関わる同時代文学研究 | 松本　博明 |
| 5 | 基盤研究（C）（基金） | 盲導犬普及のための盲導犬及び利用者の行動・バリアー研究 | 元田　良孝 |

# 令和７年度教育の活動状況

## ■「数学」教員免許 第1号取得者の輩出

令和４年に本学ソフトウェア情報学部に設置されました「数学」の高等学校・中学校教諭一種免許の教職課程は、昨年完成年度を迎え、この春15名の免許取得者を輩出しました。教員採用試験では中学校数学３名、高等学校数学１名が合格しています。

本学には、「数学」以外にも、ソフトウェア情報学部（大学院含む）に「情報」の高等学校教諭一種免許・専修免許、看護学部に「保健」の高等学校教諭一種免許、「養護教諭」一種免許の各教職課程があり、これまでにも高等学校の「情報」の教員や養護教諭を岩手県内に多数輩出し続けるなどの長年にわたる実績があります。

「数学」課程の設置により、ソフトウェア情報学部では、従来の高等学校教諭「情報」一種免許と合わせ、最大３つの教職免許が取得可能となり、現在多くの学生が免許取得を目指して勉学に励んでいます。文科省からは複数教科の免許取得が推奨されておりますので、今後「情報」「数学」の課程の相乗効果が期待されるところです。教職課程履修者も増え、ソフトウェア情報学部の履修者が４学年合わせて100名近くとなっております。

本学教職課程の特徴として、地域と連携し、一体となって教員養成が進められている点があげられます。岩手県スクールトライアルや滝沢市ラーニングサポーターといった学校体験活動をはじめ、教育実習の事前指導として、岩手県立盛岡北高校様からは学校訪問・参観、岩手県教育委員会様からは教員という職務に関するご講話など、学校教育を知る多くの機会をいただいております。

こうした地域の皆さま方からのご理解・ご協力は、本学教職課程への強い期待の表れと受け止めており、心より感謝いたしております。本学教職課程の長年の実績に、「数学」が積み重なっていくよう、各学部および教職教育センターといたしましても、今後より一層教員養成に力を注ぎ、岩手県に貢献していきたいと考えております。



盛岡北高での授業参観（数学）
立ち上がって熱心に授業参観する本学学生

## ■アイーナキャンパスの取組について

岩手県立大学では岩手県民情報交流センター（キオクシアアイーナ）７階に、岩手県立大学アイーナキャンパスを設置しています。アイーナキャンパスは本学の教職員や学生が利用するほか、各学部の教育・研究活動の掲示、入試関係資料の配布等を行っております。

また、アイーナキャンパス事業として各学部の専門性を活かした公開講座や社会人向け講座、各種相談事業を年間通して開催しています。令和７年度には19事業を実施し、延べ800名を超える方々に参加いただきました。

本学高等教育推進センターが主催する「短期英語学習プログラム」では、県内高校生を対象に、冬季及び春季の長期休業期間中に集中講座を実施しました。講座では、「米国人大学生を想定して英語で趣味をプレゼンしよう」や「英語から見た日本語、日本語から見た英語」、「表現のために英文法を学ぶ」などの講義に加え、本学の英語演習科目で実際に行われている学習内容の紹介、オハイオ大学で実施する海外語学研修の紹介、また、TOEICプログラムの体験等を行いました。これらを通じて、４技能（聞く・話す・読む・書く）をバランスよく習得できるよう工夫された本学の英語教育を高校生に周知する機会を提供することができました。また、講座後に実施した参加者アンケートの結果等から、主体的かつ継続的な英語学習の意義について理解を深めてもらう機会になったことが伺えました。



アイーナキャンパス学習室で開催された講座の様子



## ■ライブラリー・アテンダントによる学生目線での図書館利用案内

滝沢キャンパスでは、令和７年度は24名の学生がライブラリー・アテンダント（通称LA）として、学生目線での図書館利用案内及び企画展示、イベントを実施しました。

ぜひ知ってほしい図書館からのお知らせや、LA自身の経験を交えた利用方法を、カウンター業務やSNS等を通して伝えたほか、年間を通じて行われている企画展示では、普段の授業やレポート作成に役立ててほしい本から息抜きとして読んでほしい本まで、さまざまなジャンルのおすすめ本を集めて紹介しました。

大学祭期間には一般の方も参加可能な謎解きゲームを開催し、参加者が謎を解きながら図書館の利用方法を学ぶことができるよう、問題の作成もLAが一から行いました。大学祭当日は、参加者が楽しみながら図書館内を回る様子が見られ、たくさんの方が図書館に足を運ぶきっかけとなりました。

また、宮古キャンパスでは、13名の学生が宮古短期大学部ライブラリー・アテンダント（通称MLA）として活動しました。カウンター業務や図書館に所蔵する本を学生の目線で選ぶ「選書ツアー」、特色ある図書館を見学する「図書館見学」、「本のお楽しみ袋」などの企画を開催したほか、図書館運営に学生の意見を取り入れました。

さらに、他の図書館との連携として、図書を選定する「資料選定」や毎月共通のテーマで図書を展示する「今月の特集」の企画を実施、図書館関係者との情報交換を行うなど、地域とのつながりを持つことができました。

今後も、図書館をより身近に感じてもらうことができるよう、学生目線での活動を継続していきます。

※ライブラリー・アテンダント＝図書館の利用案内、企画展示などを行う学生スタッフ。滝沢キャンパスでは通称LA、宮古キャンパスではMLAとして活動している。



2025年新学期企画展示「新入生におすすめの本」の様子
（滝沢キャンパス）




図書館謎解きゲームのポスター
（滝沢キャンパス）

## ■グローバルセンターサポーター制度の創設

国際交流推進室が運営するグローバルセンターでは、本学学生に自主的な国際交流活動の機会を提供し、多文化理解の促進や外国人留学生との交流を図ることを目的として、令和７年10月に「グローバルセンターサポーター制度」を創設しました。令和７年度は14名の学生がサポーターとして登録し、外国人留学生を対象とした日本語・漢字練習会や書初め体験を通じた交流活動を行ったほか、サポーターと外国人留学生が共同で企画し、インドの伝統衣装「サリー」を紹介する多文化理解講座を開催しました。

書初め体験では、サポーターが外国人留学生の希望する文字のお手本を書き、そのお手本をもとに、外国人留学生が思い思いの文字を練習しました。書道道具の使い方や漢字の書き順を教え合いながら、終始和やかな雰囲気の中で交流を深めました。

本学では、今後も学生が学内で多文化に触れ、外国人留学生と交流できる機会を創出することで、多文化を理解する力とコミュニケーション能力を備えた、国際感覚豊かな人材の育成に取り組んでいきます。



インドの伝統衣装サリーの紹介

# 令和８年度入学及び令和７年度卒業・就職の状況

## ■令和8年度の入学者選抜の状況

岩手県立大学では、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、多様な選抜区分により学生の募集を行っています。

令和８年度入学者選抜においては、一般選抜、総合型選抜、学校推薦型選抜、社会人選抜などを実施し、新入学の志願者数は1,550人（対前年度167人減少）、大学院の定員充足率は48.9%（26年連続定員割れ）でした。また、盛岡短期大学部の定員充足率は113.0%、宮古短期大学部の定員充足率は126.0%で、両短期大学部で定員を確保しています。

本学では、高大連携事業や入試広報活動を通じて、入学志願者の確保の取組を展開しています。

### ●令和8年度入学者選抜結果

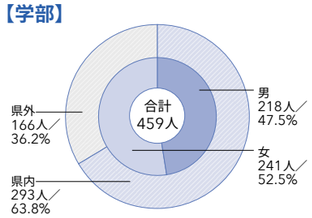
（単位：人、倍）

| 学　部 | 募集人員 | 志願者数 | 受験者数 | 合格者数 | 実質倍率 |
|---|---|---|---|---|---|
| 看護学部 | 90 | 298 | 169 | 93 | 1.8 |
| 社会福祉学部 | 90 | 324 | 261 | 97 | 2.7 |
| ソフトウェア情報学部 | 160 | 530 | 344 | 181 | 1.9 |
| 総合政策学部 | 100 | 398 | 286 | 115 | 2.5 |
| 計 | 440 | 1,550 | 1,060 | 486 | 2.2 |
| **学　部（編入学）** | **募集人員** | **志願者数** | **受験者数** | **合格者数** | **実質倍率** |
| 看護学部 | 10 | 4 | 4 | 4 | 1.0 |
| 社会福祉学部 | 10 | 15 | 15 | 9 | 1.7 |
| 社会福祉学科 | 5 | 7 | 7 | 5 | 1.4 |
| 人間福祉学科 | 5 | 8 | 8 | 4 | 2.0 |
| ソフトウェア情報学部 | 10 | 27 | 26 | 12 | 2.2 |
| 総合政策学部 | 10 | 31 | 30 | 10 | 3.0 |
| 計 | 40 | 77 | 75 | 35 | 2.1 |
| **大学院** | **募集人員** | **志願者数** | **受験者数** | **合格者数** | **実質倍率** |
| 看護学研究科看護学専攻 | 13 | 6 | 6 | 5 | 1.2 |
| 社会福祉学研究科社会福祉学専攻 | 18 | 15 | 15 | 7 | 2.1 |
| ソフトウェア情報学研究科ソフトウェア情報学専攻 | 50 | 28 | 28 | 28 | 1.0 |
| 総合政策研究科総合政策専攻 | 13 | 10 | 9 | 8 | 1.1 |
| 計 | 94 | 59 | 58 | 48 | 1.2 |
| **盛岡短期大学部** | **募集人員** | **志願者数** | **受験者数** | **合格者数** | **実質倍率** |
| 生活科学科 | 50 | 90 | 87 | 82 | 1.1 |
| 生活デザイン専攻 | 25 | 51 | 49 | 44 | 1.1 |
| 食物栄養学専攻 | 25 | 39 | 38 | 38 | 1.0 |
| 国際文化学科 | 50 | 96 | 95 | 81 | 1.2 |
| 計 | 100 | 186 | 182 | 163 | 1.1 |
| **宮古短期大学部** | **募集人員** | **志願者数** | **受験者数** | **合格者数** | **実質倍率** |
| 経営情報学科 | 100 | 196 | 197 | 194 | 1.0 |

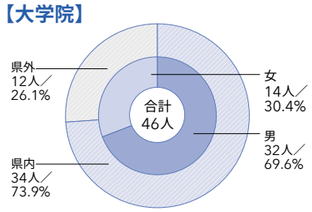
（注）実質倍率=受験者数÷合格者数
（注）宮古短期大学部の一般選抜の受験者数は、A・B併願志望者のうち、一般選抜A、一般選抜Bを双方とも受験した者を含みます。

### ●令和8年度入学者の内訳

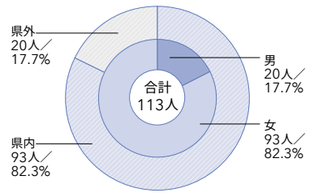
【学部】



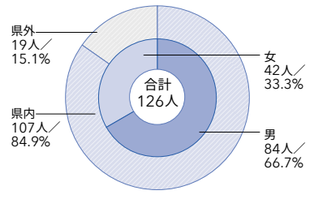

【大学院】




【盛岡短期大学部】




【宮古短期大学部】






## ■高大連携の取組

本学では、高等学校と大学間の相互理解を促進し、意欲のある高校生が大学での学修に触れる機会を設けるため、様々な高大連携の取組を実施しています。

対面での入試説明会や相談会に加え、オンラインでの入試相談にも対応しているほか、大学見学では、大学の説明と施設の見学を実施しています。

また、本学での学修内容に触れる機会として、授業見学、高校への出張講義、サマーセミナー等を開催しています。

大学見学や相談会の際には、学生で構成する学生広報団体（Campus Attendant　キャンパス・アテンダント）が自身の体験談の発表やキャンパスガイドを実施し、実際の学生の声が聴けるということで好評を得ています。


キャンパス・アテンダントによるキャンパスガイド

| 高大連携事業 | 内　容 |
|---|---|
| 高校訪問 | 入試の情報提供や本学への意見を聴取。 |
| 出張講義・オンライン模擬講義 | 高校等での模擬講義、探究学習への支援を実施。高校等の希望に応じてオンラインで実施。 |
| 大学見学 | 高校生等の見学の受入。 |
| 授業見学 | 高校生の講義見学を受入。 |
| 高校教員大学説明会 | 高校教員へ各学部の特徴や入試の概要説明。 |
| 入試相談会 | 沿岸・県北地区等の高校会場、大学祭（滝沢キャンパス）等で高校生・保護者向け入試相談会を開催。また、オンラインでの入試相談にも対応。 |
| キャンパス・アテンダント（CA）活動 | 説明会等での体験談発表やキャンパスガイド等を実施。高校生の質問・相談の場CAカフェを実施。 |
| サマーセミナー | 夏休みや休日の期間を活用し、「研究室体験」「授業体験」の機会を提供。 |
| いわて高校生学び応援プロジェクト | 県内の高校生向けに探究活動・課題研究コンクールと小論文コンクールを実施。 |
| オープンキャンパス | 入試説明会及びキャンパス・アテンダント（CA）企画（キャンパスツアー、イベント等）を実施。 |

## ■インターネット出願の導入

令和４年度入学者一般選抜から、インターネット出願を導入しました。志願者にとっては出願書類作成の効率化が図られることに加えて、入学検定料の支払い方法をクレジットカードやネットバンキングにも拡張するとともに、志願に必要な項目の記入漏れを防ぐ効果があります。また、志願者登録情報のデジタル化により志願者受付業務の効率化が図られることから、令和５年度入学者選抜からはインターネット出願対象を大学院まで拡大しました。

# 令和7年度の卒業者及び就職の状況

令和７年度の卒業者は、４大学部439人、大学院修了者44人、盛岡短期大学部93人、宮古短期大学部67人、計643人でした。

卒業者の進路について、４大学部は、就職内定者383人（うち県内147人、県外236人）、大学院等進学34人、その他８人でした。盛岡短期大学部は、就職内定者60人（うち県内37人、県外23人）、進学者24人、その他８人、宮古短期大学部は、就職内定者40人（うち県内24人、県外16人）、進学者23人、その他２人でした。

就職内定率は、４大学部96.5%、盛岡短期大学部98.4%、宮古短期大学部95.2%でした。

## ■令和7年度の卒業者の状況

令和8年3月卒業生における数値（単位：人）

| 学部 | 看護学部 | 社会福祉学部 | ソフトウェア情報学部 | 総合政策学部 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 卒業者 | 87 | 98 | 144 | 110 | 439 |
| 就職希望者 | 85 | 89 | 121 | 102 | 397 |
| 就職内定者（うち県内） | 84（37） | 87（38） | 116（26） | 96（46） | 383（147） |
| 就職内定率 | 98.8% | 97.8% | 95.9% | 94.1% | 96.5% |
| 進学者 | 2 | 5 | 21 | 6 | 34 |
| その他 | 0 | 4 | 2 | 2 | 8 |

| 大学院修了者 | 看護学研究科 | | 社会福祉学研究科 | | ソフトウェア情報学研究科 | | 総合政策研究科 | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 博士前期 | 博士後期 | 博士前期 | 博士後期 | 博士前期 | 博士後期 | 博士前期 | 博士後期 | |
| | 5 | 0 | 7 | 2 | 26 | 1 | 3 | 0 | 44 |

| 短大 | 盛岡短期大学部 | 宮古短期大学部 |
|---|---|---|
| 卒業者 | 93 | 67 |
| 就職希望者 | 61 | 42 |
| 就職内定者（うち県内） | 60（37） | 40（24） |
| 就職内定率 | 98.4% | 95.2% |
| 進学者 | 24 | 23 |
| その他 | 8 | 2 |

（注）「就職内定率」は就職希望者に対する就職内定者の割合であり、令和8年3月31日現在の内容を以て決定

（注）その他は、療養に専念、家事従事、進学・留学準備、一般的な就職の概念になじまない就業（準備）の者、社会人学生等

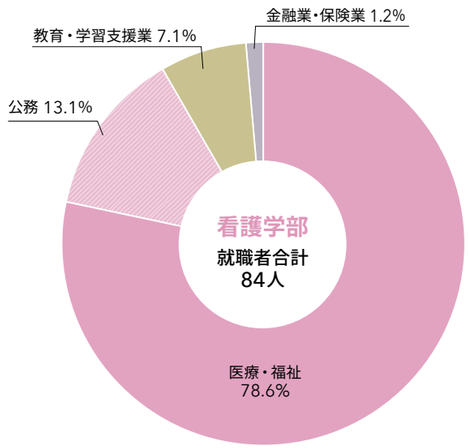
## ■就業力育成の取組

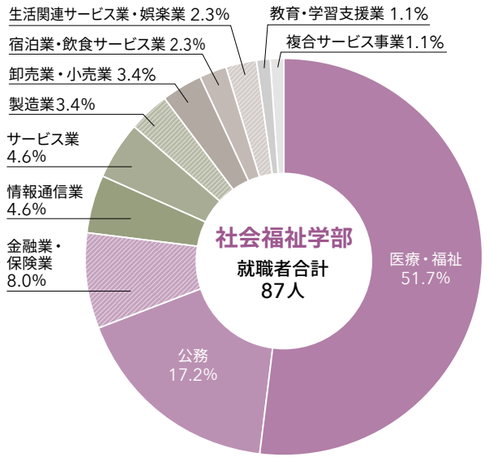
本学では、学生の就業力の育成と進路実現に向けた支援として、次のような取り組みを行っています。

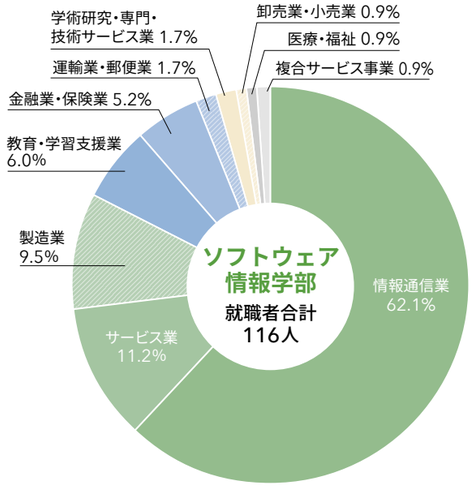
- 就職ガイダンスを通し、学部の特性や企業の採用活動の動向、インターンシップ等の就業体験の現状、就職活動の早期化等、学生が就職活動を行う上で必要な情報を提供しています。令和７年度は26回のガイダンスを実施しました。
- インターンシップ等の就業体験の意義や参加の心構え、ビジネスマナー等、学生がインターンシップに関する理解を深めるためのガイダンスや事前学習を行っています。岩手県内の事業所での就業体験を仲介する「インターンシップin岩手」について、令和７年度は夏季・春季合わせて159名の学生が参加しました。
- 公務員志望の学生に対し、公務員に関する基礎知識の習得や試験対策、公務員として働く卒業生との座談会の開催など、学生の具体的な目標に対応した支援を行っています。
- 本学独自の「就職活動ロードマップ」を用いて、学生が就職活動を行う上で必要なスキルの達成度を測定し、学生の自己評価が低い項目については支援の改善を行っています。

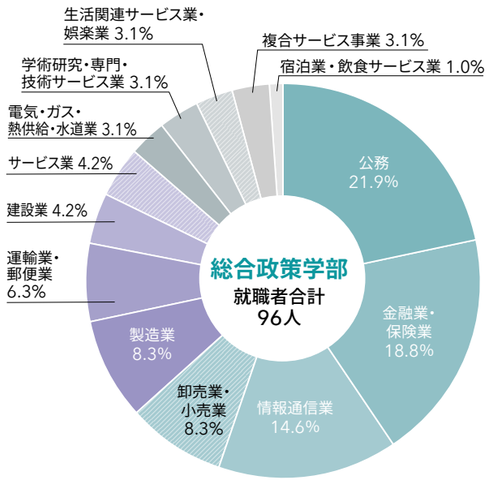


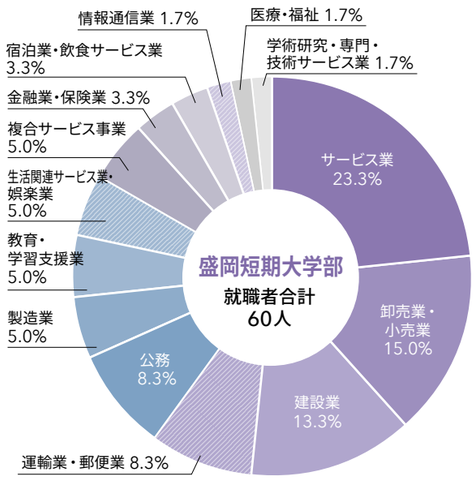

## ■令和7年度卒業生の主な就職内定先

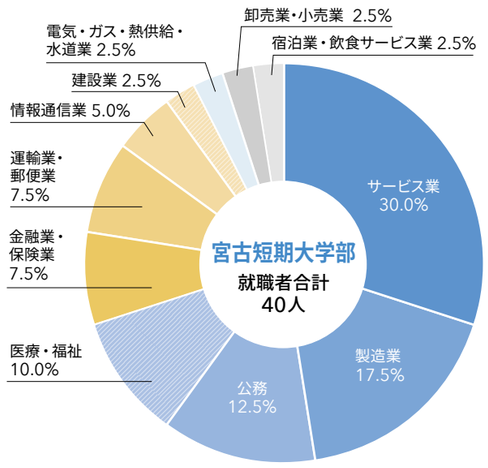


# 令和７年度財務状況

## ■多様な資金の獲得と効果的な大学運営

令和７年度は、前年度に引き続き、競争的資金や受託研究費、共同研究費の獲得に努めたほか、積極的に国の補助金や受託事業を活用し、地域における産学共同研究事業や学生の就職支援事業、次世代の人材育成業務などに取り組みました。このほか、事業内容の見直しや重点化に努め、事務事業の効率化を図りながらコスト削減に取り組む一方で、今年度も目的積立金を財源とした「学長特別枠」を設け、教育の質の向上に資する事業に対し計画的に予算を配分し、教育・研究活動の充実・強化に努めました。

### ●岩手県立大学の財務状況（令和8年3月31日現在）

**資　産**

**Ⅰ 固定資産**
**16,951,531 千円**

岩手県立大学の建物や土地、機械装置、車両、図書などの資産
(内訳)
有形固定資産
16,793,113千円
無形固定資産
23,790千円
投資その他の資産
134,626千円

**Ⅱ 流動資産**
**2,327,167 千円**

預金や重油等、貯蔵品などの資産

**資産合計**
**19,278,699 千円**

**負債・純資産**

**負債**
**1,798,896 千円**

長期未払金や未払金
(内訳)
固定負債　901,189千円
流動負債　897,706千円

**純資産**
**17,479,803 千円**

資本金や教育研究・施設環境充実のための積立金などの資本
(内訳)
資本金　32,679,099 千円
資本剰余金△18,072,745 千円
利益剰余金　2,873,449 千円

**負債・純資産合計**
**19,278,699 千円**

（注）端数処理を行っているため、合計値が合わない場合があります。

### ●令和７年度の収支状況〈収入〉

岩手県立大学における収入の60.7%は、岩手県からの運営費交付金です。授業料、入学金及び検定料、産学連携等研究収益等の自主財源の割合は39.3%です。

| 項 目 | 金額(千円) | 割合(%) | 備 考 |
|---|---|---|---|
| 運営費交付金 | 4,030,916 | 60.7 | 県から運営費として交付されたもの |
| 授業料 | 1,216,238 | 18.3 | 大学独自の収入（自主財源） |
| 入学金及び検定料 | 214,555 | 3.2 | |
| 産学連携等研究収益 | 113,083 | 1.7 | 企業や団体から委託された研究及び事業における収入 |
| 補助金等 | 338,272 | 5.1 | 施設等整備事業費補助金、寄附金等 |
| 寄附金 | 31,587 | 0.5 | |
| その他 | 102,098 | 1.5 | |
| 目的積立金取崩 | 596,660 | 9.0 | |
| 合計（A） | 6,643,409 | | |

### ●令和７年度の収支状況〈支出〉

支出のうち、教育、研究等に係る経費はおよそ31.6%です。

| 項 目 | 金額(千円) | 割合(%) | 備 考 |
|---|---|---|---|
| 教育経費 | 1,384,571 | 21.3 | 大学教育及び研究等に係る経費 |
| 研究経費 | 504,059 | 7.8 | |
| 教育研究支援経費 | 162,420 | 2.5 | |
| 産学連携等研究経費 | 108,225 | 1.7 | 企業や団体から委託された研究及び事業に係る経費 |
| 役員人件費 | 15,593 | 0.2 | 役員、教員、非常勤講師及び事務局等の職員人件費 |
| 教員人件費 | 2,686,698 | 41.4 | |
| 職員人件費 | 1,039,273 | 16.0 | |
| 一般管理費等 | 590,743 | 9.1 | 光熱水費、修繕費、消耗品費等 |
| 合計（B） | 6,491,587 | | |

※（注）端数処理を行っているため、合計値が合わない場合があります。

**令和７年度収支（A-B）　151,822千円**

## ■学生及び教員一人あたりにかかる経費［令和7年度］

令和７年度の大学教育及び研究等における経費は、岩手県立大学全体で損益経常費用合計64億9,159万円でした。教育経費と教育研究支援経費、教員人件費の一部を含めた、学生一人あたりの教育経費は約114万円です。また、教員一人あたりの研究経費は約251万円です。

**大学教育及び研究等にかかる経費**

**総計**
**4,737,748千円**

教育経費 …… 1,384,571千円
研究経費 …… 504,059千円
教育研究支援経費 …… 162,420千円
教員人件費 …… 2,686,698千円

**学生一人あたりの教育経費**

**教育経費総計**
**2,809,130千円**

内訳
教育経費 …… 1,384,571千円
教育研究支援経費×1/2 ……81,210千円
教員人件費×1/2※2 …… 1,343,349千円

÷ 学生数 2,454人 → 1,144千円

内訳
岩手県立大学（大学院含む）‥ 2,087人
盛岡短期大学部 ……206人
宮古短期大学部 ……161人

※2　教員は教育と研究を行うため、教育に係る人件費を1/2としました。

**教員一人あたりの研究経費**

**研究経費総計**
**585,269千円**

内訳
研究経費 ……504,059千円
教育研究支援経費×1/2 ……81,210千円

÷ 教員数 233人（令和7年5月1日現在） → 2,511千円

（注）端数処理を行っているため、合計値が合わない場合があります。

### column　岩手県立大学未来創造基金

本学では、開学20周年を機に、大学の運営を安定化させ、教育研究活動等を更に充実させていくための財源として、平成28年4月に「岩手県立大学未来創造基金」を設置しました。

本基金は趣旨に賛同していただける個人、法人、団体等の皆様からの寄附金（1口1,000円）及びその運用益をもって構成するものであり、次の事業に充てることとしています。

○教育及び研究活動の充実を図るために必要な事業
○学生及び外国人留学生に対する支援事業
○産学官連携及び地域・社会貢献に係る活動を推進するために必要な事業
○被災地の復興を支援するために必要な事業
○施設整備及び大学運営等の充実を図るために必要な事業

これまでにいただいた寄附金は、学内のアスレチック設備の充実や構内の外灯設置などに活用しています。


トレーニング室に設置されたトレッドミル


構内に設置された外灯

今後も、地域に根ざす大学として、本基金を活用しながらいわての未来づくりに貢献する人材育成と地域に貢献する取組をさらに広げていきたいと考えておりますので、皆様の御理解と御支援をよろしくお願いします。

# 組織図

## 公立大学法人岩手県立大学




## 役員

### 公立大学法人岩手県立大学

| | 岩手県立大学 | 岩手県立大学盛岡短期大学部 | 岩手県立大学宮古短期大学部 |
|---|---|---|---|
| 理事長 石堂　淳 | 学長 鈴木　厚人 | | |
| 副理事長 鈴木　厚人 | 副学長（教学）／教育支援本部長／教学マネジメントセンター長 高橋　聡 | | |
| 専務理事 鈴木　俊昭 | 副学長（企画広報・研究地域連携）／研究・地域連携本部長 亀田　昌志 | | |
| 理事 亀田　昌志 | 副学長（総務・法務）／事務局長 鈴木　俊昭 | | |
| 理事 高橋　聡 | 学生支援本部長 高嶋　裕一 | | |
| 理事 福島　裕子 | 企画・広報本部長 猪股　俊光 | | |
| 理事（非常勤） 藤村　文昭 | 高等教育推進センター長 高橋　英也 | | |
| 理事（非常勤） 小原　忍 | | | |
| 監事（非常勤） 三河　春彦 | 看護学部長 看護学研究科長 工藤　朋子 | | |
| 監事（非常勤） 細川　亮 | 社会福祉学部長 社会福祉学研究科長 佐藤　匡仁 | 盛岡短期大学部長 長坂　慶子 | 宮古短期大学部長 田中　宣廣 |
| | ソフトウェア情報学部長 ソフトウェア情報学研究科長 橋本　浩二 | | |
| | 総合政策学部長 総合政策研究科長 Tee Kian Heng | | |


理事長
石堂　淳


副理事長／学長
鈴木 厚人


専務理事／副学長（総務・法務）／事務局長
鈴木　俊昭


理事／副学長（企画広報・研究地域連携）／研究・地域連携本部長
亀田 昌志


理事／副学長（教学）／教育支援本部長／教学マネジメントセンター長
高橋　聡


理事
福島　裕子


学生支援本部長
高嶋　裕一


企画・広報本部長
猪股　俊光


高等教育推進センター長
高橋　英也


看護学部長
看護学研究科長
工藤　朋子


社会福祉学部長
社会福祉学研究科長
佐藤　匡仁


ソフトウェア情報学部長
ソフトウェア情報学研究科長
橋本　浩二


総合政策学部長
総合政策研究科長
Tee Kian Heng


盛岡短期大学部長
長坂　慶子


宮古短期大学部長
田中　宣廣

### 教職員数

| | 岩手県立大学 | 岩手県立大学盛岡短期大学部 | 岩手県立大学宮古短期大学部 |
|---|---|---|---|
| 教　授 | 55 | 8 | 4 |
| 准教授 | 75 | 7 | 7 |
| 講　師 | 40 | 6 | 3 |
| 助　教 | 16 | 1 | 0 |
| 助　手 | 8 | 2 | 0 |
| 研究員等 | － | － | － |
| **教員計** | **194** | **24** | **14** |
| 職　員 | 170 | | |
| **教職員計** | **402** | | |

※令和8年5月1日現在



## 滝沢キャンパス

**看護学部・社会福祉学部・ソフトウェア情報学部・総合政策学部・盛岡短期大学部・高等教育推進センター・看護学研究科・社会福祉学研究科・ソフトウェア情報学研究科・総合政策研究科**

〒020-0693　岩手県滝沢市巣子152-52
TEL.019-694-2000　FAX.019-694-2001
｜施設概要｜敷地面積(実　測)35.1ha／建物面積(延べ床)81,304m²

**地域連携棟**
**(いわてものづくり・ソフトウェア融合テクノロジーセンター、地域政策研究センター、防災復興支援センター)**

〒020-0611　岩手県滝沢市巣子152-89
TEL.019-694-3330　FAX.019-694-3331



## 宮古キャンパス
**宮古短期大学部**

〒027-0039 岩手県宮古市河南 1-5-1
TEL 0193-64-2230　FAX 0193-64-2234
〈施設概要〉敷地面積（実　測）5.6ha
　　建物面積（延べ床）8,664 ㎡



## アイーナキャンパス
**サテライトキャンパス**

〒020-0045 岩手県盛岡市盛岡駅西通 1-7-1
いわて県民情報交流センター（アイーナ）7 階
TEL 019-606-1770　FAX 019-606-1771
〈施設概要〉学習室、セミナー室等12室

## ACCESS GUIDE

### ■ 航空機

■札幌 ……〈約1時間〉……いわて花巻空港
■名古屋（小牧）…〈約1時間10分〉……いわて花巻空港
■大阪（伊丹）……〈約1時間20分〉……いわて花巻空港
■福岡……〈約1時間55分〉……いわて花巻空港
※いわて花巻空港から盛岡駅へ
■いわて花巻空港…〈バスで約45分〉……盛岡駅
盛岡駅から列車またはバスで岩手県立大学へ〈地図参照〉

### ■ JR在来線・新幹線

■新函館北斗駅…〈約2時間10分〉……盛岡駅
■新青森駅……〈約1時間〉……盛岡駅
■秋田駅……〈約1時間40分〉……盛岡駅
■仙台駅……〈約40分〉……盛岡駅
■山形駅……〈約2時間〉……盛岡駅
■福島駅……〈約1時間40分〉……盛岡駅
■東京駅……〈約2時間15分〉……盛岡駅
※ 乗り換え時間を含まない最短時間として。

### ■ 滝沢キャンパスまでの経路

■バス
岩手県交通／「岩手県立大学」下車
乗り場は「盛岡駅東口バス停②」、所要時間約40分
※最新の状況はバス会社にお問い合わせください。

■鉄道
いわて銀河鉄道［IGR］、「盛岡駅」から「滝沢駅」まで
所要時間〈約15分〉
※ 交通機関のダイヤを確認の上、ご利用ください。
※ 滝沢駅から本学まで徒歩約15分

■車
東北自動車道滝沢ICから約5分
［国道4号を青森方面へ出て、2つ目の交差点を右折してすぐ］

### ■ アイーナキャンパスまでの経路

盛岡駅西口から徒歩3分

### ■ 宮古キャンパスまでの経路

■盛岡駅から宮古駅
盛岡から106急行・急行バスで2時間
JR山田線で宮古駅まで約2時間30分
■宮古駅から宮古短大部
宮古駅前バスのりば八木沢団地行乗車
「宮古短大前」下車徒歩1分
「八木沢一丁目」下車徒歩10分（岩手県北バス）
宮古駅から三陸鉄道リアス線で「八木沢・宮古短大駅」
下車徒歩15分

### 公式SNSアカウント

@iwate_puPR

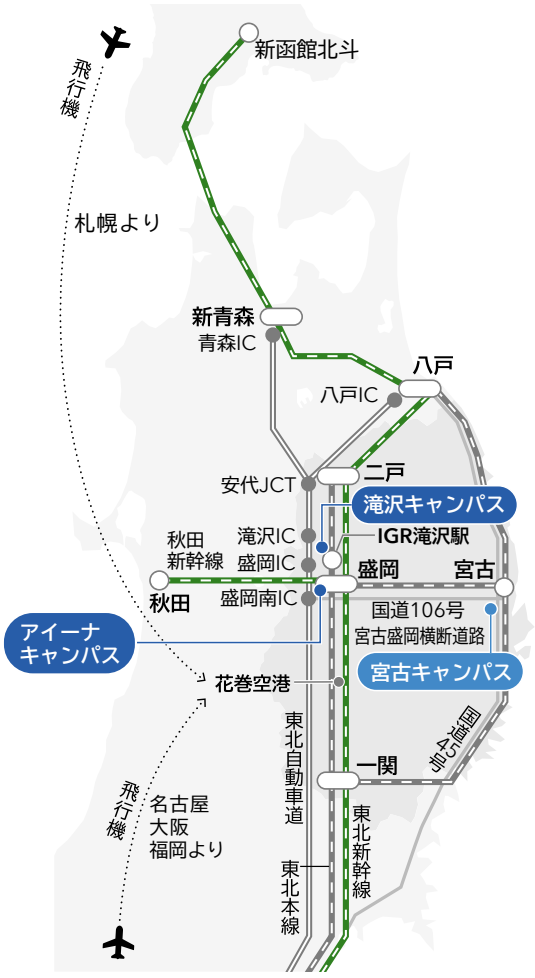
@iwate_pu_tiktok

@iwateprefuniversity

岩手県立大学

**公式 HP**
https://www.iwate-pu.ac.jp/

### 岩手県立大学へのアクセス経路




地域に 未来に 多様なアーチを
岩手県立大学
Iwate Prefectural University